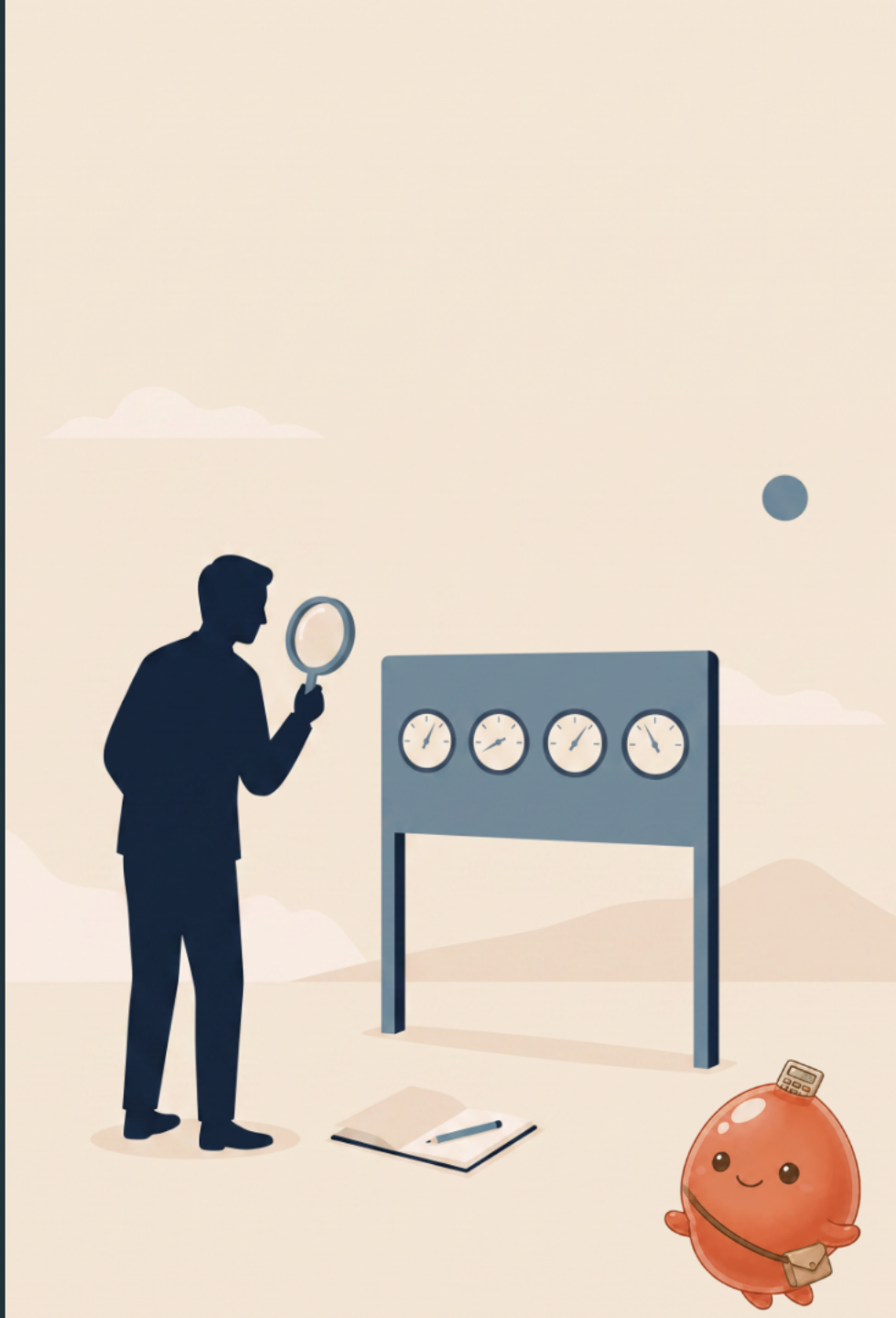


自己診断

AI活用スタートコースを終えた、その先へ



AIは使えている。

でも、それって具体的にどういうこと？

面倒な作業を見つけて、AIに頼んで、使って、直す。

このループを、自分の力で回せるようになっているはずだ。

任せる範囲を広げるのが得意な人もいれば、確かめ方の工夫が得意な人もいる。

伸ばすべき場所は、人によってまるで違う。

だからこの講座は、まず自分の現在地を測るところから始める。



AIユーザーレベルチェックを受けてみる

すでに公開している無料の診断ツールがある。
まだ受けていなければ、先にやってみてほしい。
この講座は、この診断の結果を土台にして進む。

AIユーザーレベルチェック — 全10問・約2分・登録不要

<https://ai-sozo.com/tools/ai-user-level>



何を測っているのか — 4つの軸

委任

どこまでAIに預けているか

実行の範囲を、どこまで渡しているか。

検証

確かめ方が「目」か「仕組み」か

確認を、自分の目でしているか、仕組みでしているか。

設計

止めどきと往復回数の設計

どこで終わるかを、事前に決めているか。

言語化

自分のやり方を説明できるか

やり方を、人に渡せる形にできているか。



総合レベルの判定に、入るもの・入らないもの

判定に入る

- ・ 委任
- ・ 検証
- ・ 設計
- ・ 言語化

判定に入らない

- ・ 自走 — まだ「これが正解」というやり方が定ま
っていない領域



この講座の流れ — 4つの軸を、1つずつ深く掘る

第2回

委任

どこまで渡せば、見てなくても最後まで走るかを設計する。

第3回

検証

確かめる仕組みを、自分の手を離れた形で組み込む。

第4回

設計

止めどきを事前に決めて、その場の判断をなくす。

第5回

言語化

自分のやり方を、人に渡せる形まで書き出す。



職人から、設計する人へ

これまで（職人）

- ・自分が使って
- ・自分か、AIが気づいて
- ・AIが直す
- ・自分が止まれば、ループも止まる

これから（設計者）

- ・実行はAIに任せる
- ・仕組みが確かめる
- ・仕組みが直す
- ・条件が来たら止まる



自分がループの中にいるか、外にいるか。 それだけで、まったく別の話になる

このズレに気づかないまま進むと、委任も検証も設計も、
結局は自分が毎回手を動かす話に戻ってしまう。

この講座を通して、自分はループの外側にいる。



「外に出る」には、2段階ある

今回から

実行中を手放す

任せて、仕組みが確かめて、直して、条件が来たら止まる。
始めるのは、まだ自分。

その先

トリガーを手放す

始めることさえ自分じゃなくなる。
第7回「次の扉」で改めて扱う。



今日のチェックリスト

- ・ AIユーザーレベルチェックを受けた
- ・ 自分が一番低いと感じた軸を、言葉にしてみた
- ・ 「ループの中」から「外で設計する」への切り替えを意識した

次回は、いちばん分かりやすい入口
「委任」から始める。

